

新年のごあいさつ

環境変化を捉えた“自己改革”の実践



皆様におかれましては、ご家族お揃いで新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、JA事業全般にわたりご理解とご結集を賜り、役員一同心から感謝申し上げます。

昨年の米生産調整の取り組みにつきましては、飼料用米の取り組みが拡大し、全水稻作付面積の割に達するまでになり、JA扱い数量で4,532ト(約7万5千俵)となりました。農家所得の確保と米価の安定に一定の効果があつたと思慮される所です。主食用米の集荷状況は、作況105のなかで予約対比97%となり、58万俵余りとなり、これからの米販売戦略の再構築を迫られた年

でありました。今後は、益々産地間競争が激化してまいります。環境保全米の主産地として、管内に設置している米均質化装置・色彩選別機・低温倉庫をフル活用し、高品質で良食味である登米産米の生産維持拡大を図るとともに、産地の生き残りをかけて販売促進を図ってまいります。

畜産につきましては、全国的に子牛供給頭数が10万頭近く減少した影響もあり、一年を通して高値基調で取引され、繁殖農家にとっては、後継者育成の意欲も高まり好条件で推移いたしました。一方、肥育牛生産は、素牛価格の高騰もあり、飼養管理の向上を持っても厳しい状況下になりました。今後、継続的に肉牛経営を進めるためには、更なる肉牛価格の上昇を求めなければなりません。本年9月に開催される第11回全国和牛能力共進会宮城大会を契機として、登米産「仙台牛」のブランド化をより一層推進するとともに「仙台牛」の主産地として、地元消費者へのPRに努めてまいります。

園芸につきましては、天候に左右されたこともあり、キュウリ、キャベツ等の収量減等により、高値で取引される時期もありましたが、今後

は各作物とも作付拡大を図る必要があり。キュウリ選果場の選果機も更新し、フル稼働できる体制となりましたので、各農家、経営体においても園芸品目への新規取り組みや作付拡大をお願いいたします。

農業農村を取り巻く状況は先行き不透明なTPP関連法案の承認や平成30年以降の米政策の変革、昨年4月の改正農協法の施行と、矢継ぎ早に改革、改革と攻め込まれていきます。人口減少、高齢化社会にある地方に、地域農業の持続的な発展を図るための政策を提示することもなく、協同組合もしくは、家族農業経営をつぶしに向かっていると思えませんか。JAの自己改革は国や人から言われてやるのではなく、JA自らがJAの目的に沿った改革をすることだと信じています。

環境変化を捉え、JAみやぎ登米は、次の三つの改革を柱とした自己改革に取り組み、これからも組合員、地域社会からの負託に応えられる農協であり続けます。

改革の一つ目は、「生産現場の改革」です。環境保全米の直播栽培体系を確立し、低コスト、高収益の実現に努めるとともに、平成30年以降

の米政策の変革に耐え得る水田農業の確立を図ります。

二つ目は、地域農業の持続的発展を目的とした「地域営農ビジョンづくり運動の展開」。

三つ目は、JA組織の「人材育成」です。農協は「人と人がつくる協同体」です。それぞれの役員が、改革の意識を持ち、業務・事業に邁進することができる人材を育成してまいります。

県内JAの組織再編構想につきましても、「県北東部地区JA合併研究会」において、最終報告書を取りまとめいたしました。当JA役員協議会においては、その有効性が確認できないと判断をした次第です。今後集落座談会等で組合員皆様へご報告申し上げます。ご理解を得てまいります。

むすびに、組合員ご家族皆様様の益々のご発展とご健勝をご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

代表理事組合長

榊原 勇

